

古田東朔

Tosaku Furuta



近現代

日本語生成史コレクション

編集 鈴木泰 清水康行 山東功 古田啓

第1回配本

第4巻 日本語—近代への歩み—国語学史2

山東功 解説・校訂 △判
330ページ 予価7600円、2010年2月刊行予定、以下隔月刊行予定。

コレクションの特徴

- 幕末・明治の激動期に刻々と変化を遂げていった日本語、そのダイナミズムを精緻に描き出す百数十の論考をテーマ別に全6巻で収録。
- 一般には人手困難な稀覯論文を多数取り込み、各巻ごとに専門家による解説、校訂付記を設ける。
- 日本語を生きたる人々、日本語を作ろうとした人々の苦闘の下キコメントがいま、よみがえる…。

編者刊行のことは

古田東朔の学問研究は、日本語が、国家的・社会的要請から、ほかのどんな時代にも見られない激しい変革にさらされた、幕末から明治を中心とした時代をあつかい、その分野も日本語史・日本語学史、国語教育ときわめて広く多岐にわたっている。(中略)

その研究は、複雑な政治・社会・文化的要因のなかで刻々と変化する言葉のダイナミズムを複眼的な視点で過不足なくとらえる独自の学風を形成し、学界に大きな影響を与え続けてきた。それは、特に現代語文法研究の基礎を築いたという意味において、今日においても十分評価に値し、その成果は、大まかなたてで後世に伝えられるべきものである。その学問を通じて、たとえ口語・文法・品詞などの研究の枠組みとなる現在通用の諸概念が、激しい淘汰を経た結果として現在あることを知り、それらにも相対性を肯定できない面のあることに思い至ることは、少しでも日本語を本質的に考えようとする後進にとっては、必要不可欠なものであると信ずる。(中略)

本コレクションが日本語学界のみならず、国語教育、日本語教育、思想史などの隣接諸分野において日夜研鑽を続けている人々の志にもたえざるものとなることを希望してやまない。

鈴木泰



全6巻

- 第1巻 江戸から東京へ—国語史1
- 第2巻 国語意識の発生—国語史2
- 第3巻 日本語へのまなざし—内と外から—国語学史1
- 第4巻 日本語—近代への歩み—国語学史2
- 第5巻 国語科教育—誕生と発展
- 第6巻 東朔夜話—伝記と随筆



くろしお出版

編者刊行のことは全文は www.9640.jp で掲載中。古田コレクション公式ウェブサイト間もなくオープン!